電通総研はやばい？

激務・年収・将来性の実態

「やばい」検索の 3 つの文脈

ネガティブな不安
激務・電通本体の過労イメージが転用されている

ポジティブな羨望
年収が高くて大手で安定しているという評価

ブランド先入観
電通本体との混同による事業イメージのズレ

文脈を切り分けてから検証すると、自分の疑問に合った答えが見えてくる

電通総研の正体：旧 ISID から社名変更

社名変更の経緯

2024 年 1 月に旧 ISID から電通総研へ商号変更

事業の本質

SIer ・コンサル + シンクタンクの 3 領域を統合

注目点

広告代理店の電通本体とは事業の性質が根本的に異なる

事業規模と財務：決算資料で確認

売上・利益

売上高
1,526 億円（2024 年 12 月期）

営業利益
210 億円・利益率 13 ～ 14% 前後

業績基調
増収増益を継続中

従業員・採用

従業員数
連結 4,000 名規模

採用状況
人員増加基調で継続採用中

利益率の特徴
SIer として高水準の利益率

SAP 領域での立ち位置

SAP 導入実績

1995 年から 20 年超・累計 200 社を超えるプロジェクト

S/4HANA 対応

移行認定パートナーとしてトータル支援を提供

注目点

国内有数の SAP パートナーで大規模移行案件を主導できる立場

激務・残業の実態を数字で見る

月間平均残業

26～29時間程度（就職四季報）

有給取得率

5割前後（就職四季報）

注目点

情報通信業平均よりやや多めだが突出した激務とは言えない水準

離職率と勤続年数：定着の実態

平均勤続年数

10.8 年（2024 年 12 月期有価証券報告書）

離職率

数 % 台と低水準（就職四季報）

注目点

定着率の高さは「激務でやばい」という評判と逆の事実を示す

電通本体のイメージ vs 電通総研の実態

電通本体のイメージ	電通総研の実際
先入観の出どころ	**一次情報が示す実態**
・広告代理店が主力事業	・独立系 SIer ・コンサルが起源
・過去の労働問題報道	・勤続 10 年超・低離職率
・激務・長時間労働のイメージ	・月残業 26 ～ 29 時間程度

VS

判断のポイント

社名から来る先入観を外せばデータは別の実態を指す

平均年収 1,123 万円：有報で確認

平均年間給与

約 1,123 万円（2024 年 12 月期有価証券報告書）

平均年齢・勤続

平均年齢 40.1 歳・勤続 10.8 年

注目点

上場 SIer 上位水準で高給という評判が数字で裏づけられる

年収を同粒度で比較する

電通総研

会社全体の平均

・平均年収 約 1,123 万円
・増収増益で給与原資が安定
・上場 SIer 上位水準

VS

公的統計との比較

同粒度の参照値

・全国平均給与　400 万円台
・情報通信業は全国平均より高め
・いずれも電通総研が上回る

判断のポイント

会社全体同士の比較で「勝ち組」水準を数字が示す

福利厚生と働き方の実態

勤務制度

フレックスタイム制＋在宅勤務で柔軟な働き方が可能

ライフ支援

育児・介護休業と確定拠出年金など資産形成支援

注目点

制度は整備済みだが実運用は配属で変わるため面談確認が重要

将来性：中期経営計画と追い風

事業の強み

システム・コンサル・シンクタンクの 3 領域統合という独自性

追い風の構造

S/4HANA 移行需要が国内で大きな山場を迎え拡大中

注目点

DX ・基幹刷新の構造的需要が SAP 実績豊富な電通総研に追い風

転職 vs フリーランスの判断軸

正社員転職	フリーランス参画
安定・長期キャリア重視	**高単価・自由度重視**
・モジュール経験をプロジェクトで活用	・高単価案件に絞って収入を上げやすい
・評価制度・昇給・福利厚生	・S/4HANA 経験が単価に直結
・10 年超の定着実績	・営業・税務は自己管理が必要

VS

判断のポイント

安定か自由かで自分のキャリアフェーズを確認してから選ぶ

まとめ｜電通総研は本当にやばいのか

- 激務・離職の不安は数字では裏づけられず、高年収・低離職率の安定企業に近い実態
- 月残業は情報通信業平均よりやや多く、配属プロジェクト次第で負荷は変わる
- S/4HANA 移行需要という追い風が続き、 SAP 人材にとって関与価値の高い選択肢

NEXT ACTION

まずは SAP 案件の無料相談・登録

SAPフリーランスバンク ＞

SAPテンショク ＞